

14. 医学系研究科

| | | | |
|-----|-----------------|-----|-------|
| I | 医学系研究科の教育目的と特徴 | ・・・ | 14-2 |
| II | 分析項目ごとの水準の判断 | ・・・ | 14-4 |
| | 分析項目 I 教育の実施体制 | ・・・ | 14-4 |
| | 分析項目 II 教育内容 | ・・・ | 14-8 |
| | 分析項目 III 教育方法 | ・・・ | 14-10 |
| | 分析項目 IV 学業の成果 | ・・・ | 14-11 |
| | 分析項目 V 進路・就職の状況 | ・・・ | 14-13 |
| III | 質の向上度の判断 | ・・・ | 14-18 |

名古屋大学医学系研究科

I 医学系研究科の教育目的と特徴

1. (目的と基本方針)

医学系研究科は、医学及び保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、医学及び保健学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成することを目的とする。

以上の目的の基に、以下の基本方針を持って教育を行う。

- (1) 人類の健康の増進に寄与する先端医学研究を進め、新たな医療技術を創成する。
- (2) 医の倫理を尊重し、人類の幸福に真に貢献することを誇りとする医学研究者及び医療人を育成する。
- (3) 医学研究、医療の両面にわたり諸施設と共同して、地域社会の医療の質を高めるとともに、我が国及び世界の医療水準の向上に資する。
- (4) 医学研究及び医療の中核として機能するために、人的・社会的資源を有効に活用し、世界に開かれたシステムを構築する。

これは名古屋大学学術憲章の基本目標「自発性を重視する教育実践によって、論理的な思考と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」を医学及び保健学の分野で実現しようとするものである。

2. (目標と方針)

医学系研究科の教育目標として、豊かな人間性と高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力・独創性に富む医師、医学研究者と医療人を養成することを教育目標に掲げ、次の方針の下に、その目標達成を図る。

- (1) 医学部及び関連他学部で多様な専門分野を修得した学生に対し広く医学の基礎及びその応用法を体系的かつ集中的に教育し、将来医学の先端的な研究推進に貢献しうる研究者・教育者を養成する。

(中期目標M3－中期計画K10と対応)

中期目標M3

魅力ある独自の教育プログラムを提供し、優れた人材の育成を図る。

中期計画K10

魅力ある教育プログラムを提供し、それに沿った実効ある教育を実施する。

- (2) 高度な専門知識と研究的素養ならびに優れた臨床応用、開発能力を有し、医学及び保健医療課題を発展的に解決できる卓越した高度専門職業人を養成する。

(中期目標M1－中期計画K5と対応)

中期目標M1

質の高い教養教育と専門教育を教授し、国際的に評価される教育成果の達成を目指す。

中期計画K5

高度専門職業人養成を始めとする生涯教育体制の充実を図る。

3. (組織の特徴・特色)

医学系研究科(医学)は、平成12年に重点化が完了し、基礎医学と臨床医学を統合した分子総合医学、細胞情報医学、機能構築医学、健康社会医学の4専攻が設置された。

更に、本学環境医学研究所、総合保健体育科学センター、愛知県がんセンター研究所、

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所、国立長寿医療センターを協力・連携分野として組み込んでいる。

医学系研究科（保健学）は、平成 14 年に修士課程、平成 16 年に博士課程が設置された。専攻は看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学の 3 専攻で構成されている。

4.（入学者の状況等）

医学系研究科（医学）の定員は、医学修士課程 20 名、博士課程 161 名であり、入学者の定員充足率は、前者が 115%、後者が 102%となっている。留学生の比率は 6%である。

医学研究科（保健学）の定員は、博士前期課程が 48 名、博士後期課程が 17 名であり、入学者の定員充足率は、前者が 137.5%、後者が 105.9%となっており、常に定員を満たしている。

（想定する関係者とその期待）

想定する関係者は、医学医療界をはじめとする社会及び在学生であり、その期待は、豊かな人間性と高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力・独創性に富む医師、医学研究者と総合保健医療の発展に寄与し得る人材の育成である。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

医学系研究科(医学)博士課程は、平成12年に重点化が完了し、基礎医学と臨床医学を統合した分子総合医学、細胞情報医学、機能構築医学、健康社会医学の4専攻が設置されている。(別添資料(医)I-A大学院機構図参照)

医科学専攻修士課程では、医学科、歯学科、獣医学科以外の学科で多様な専門分野を修得した学生に対して、広く医学の基礎及びその応用法を体系的かつ集中的に教育し、将来医学の先端的な研究推進に貢献しうる研究者・教育者を養成すること、臨床医学、労働衛生、スポーツ医科学、臨床薬学等の方面で専門的な学識をもって活躍できる人材養成に資することを目的としている。学生は原則として医学博士課程に進学することを前提に修士2年・博士4年の一貫教育を行っている(別添資料(医)I-B入学から修了までの概念図参照)。

教員定員は、平成19年度現在157名(うち女性16名)であり、教員の採用に際して教授・准教授は公募制を基本としている。公募は本研究科のWebサイト等で公募し教育・研究目的にふさわしい人材の選出を図っている【資料(医)I-1-1】。

学生定員及び現員は資料のとおりである。修士、博士課程ともにほぼ入学定員を満たしている(別添資料(医)I-C入学状況表参照)【資料(医)I-1-2】。

医学系研究科(保健学)は、前期3専攻7分野、後期3専攻5分野にて専門教育を行っている【資料(保)I-1-1】別添資料(保)I-D教育研究組織)

学位は学位審査委員会が審査にあっている。大学院科目は3専攻で87科目あるが、10科目(11.5%)は非常勤講師が講義に入る。講師の任用には幅広い保健学教育の提供を観点としている。過去5年間の入学状況は、前期、後期課程ともに入学定員を満たしている【資料(保)I-1-2】。

【A2-2007 入力データ集：No.3-1 学生(年次別)】

【資料(医)I-1-1】教員数

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 |
|----|-----|----|----|-----|
| 49 | 51 | 15 | 42 | 157 |

《出典：総務課資料》

【資料(医)I-1-2】

修士課程

| 年次 | 入学定員 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | | | 定員充足率 |
|-----|------|------|------|-------|--------|----|-------|
| | | | | 本学出身者 | 他大学出身者 | 合計 | |
| H16 | 20 | 78 | 34 | 3 | 17 | 20 | 100% |
| H17 | 20 | 66 | 30 | 2 | 20 | 22 | 110% |
| H18 | 20 | 73 | 29 | 2 | 20 | 22 | 110% |
| H19 | 20 | 62 | 28 | 3 | 20 | 23 | 115% |

《出典：学務課大学院掛資料》

博士課程

| 年次 | 入学定員 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | | | 進学者数 | 合計 | 定員充足率 |
|-----|------|------|------|-------|--------|-----|------|-----|-------|
| | | | | 本学出身者 | 他大学出身者 | 合計 | | | |
| H16 | 161 | 190 | 177 | 64 | 98 | 162 | 12 | 174 | 108% |
| H17 | 161 | 163 | 154 | 51 | 91 | 142 | 9 | 151 | 94% |
| H18 | 161 | 182 | 164 | 56 | 94 | 150 | 11 | 161 | 100% |
| H19 | 161 | 190 | 168 | 68 | 92 | 160 | 4 | 164 | 102% |

《出典：学務課大学院掛資料》

【資料（保） I -1-1】

博士前期課程基本組織構成

| 専攻名 | 現員 (女性) | 分野 | 専任教員 数 | うち医系 教員 | 教授 | 准教授 | 講師 |
|--------------------|------------|----------|-----------|------------|----|-----|----|
| 看護学専攻 | 21(16) | 基礎看護学分野 | 6 | 3 | 4 | 2 | 0 |
| | | 臨床看護学分野 | 7 | 0 | 4 | 3 | 0 |
| | | 発達看護学分野 | 8 | 2 | 6 | 2 | 0 |
| 医療技術学専攻 | 20(0) | 医用量子力学分野 | 10 | 6 | 6 | 3 | 1 |
| | | 病態解析学分野 | 10 | 9 | 7 | 3 | 0 |
| リハビリテーション 療法学専攻 | 14(3) | 理学療法学分野 | 7 | 1 | 5 | 1 | 1 |
| | | 作業療法学分野 | 7 | 2 | 4 | 2 | 1 |

【資料（保） I -1-2】

大学院(修士・前期課程)入学者数及び充足率一覧

| 専攻名 | 教育研究分野 | 募集定員 | 平成15年度 | | 平成16年度 | | 平成17年度 | | 平成18年度 | | 平成19年度 | |
|--------------|--------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 |
| 看護学 | | 18 | 18 | 100 | 19 | 105.6 | 20 | 111.1 | 19 | 105.6 | 21 | 116.7 |
| 医療技術学 | 医用量子科学 | 20 | 10 | 130 | 12 | 110 | 10 | 150 | 10 | 155 | 10 | 125 |
| | 病態解析学 | | 16 | | 10 | | 20 | | 21 | | 15 | |
| リハビリテーション療法学 | 理学療法学 | 10 | 8 | 150 | 10 | 190 | 7 | 120 | 8 | 160 | 10 | 200 |
| | 作業療法学 | | 7 | | 9 | | 5 | | 8 | | 10 | |
| 計 | | 48 | 59 | 122.9 | 60 | 125 | 62 | 129.2 | 66 | 137.5 | 66 | 137.5 |

大学院(後期課程)入学者数及び充足率一覧

| 専攻名 | 教育研究分野 | 募集定員 | 平成16年度 | | 平成17年度 | | 平成18年度 | | 平成19年度 | |
|--------------|--------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 | 入学者数 | 定員充足率 |
| 看護学 | | 6 | 6 | 100 | 6 | 100 | 7 | 116.7 | 7 | 116.7 |
| 医療技術学 | 医用量子科学 | 7 | 4 | 185.7 | 5 | 128.6 | 7 | 114.3 | 3 | 114.3 |
| | 病態解析学 | | 9 | | 4 | | 1 | | 5 | |
| リハビリテーション療法学 | 理学療法学 | 4 | 4 | 175 | 4 | 150 | 3 | 100 | 1 | 75 |
| | 作業療法学 | | 3 | | 2 | | 1 | | 2 | |
| 計 | | 17 | 26 | 152.9 | 21 | 123.5 | 19 | 111.8 | 18 | 105.9 |

《出典：学務課学務第二掛資料》

観点 1-2 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

医学系研究科（医学）の運営体制は、最高意思決定機関である教授会、研究科長を補佐する補佐会議及び7つの常置委員会（整備・図書、修士運営、大学院運営、大学院教育、予算、国際交流、YLP・JDS 運営）が中心となっている。委員会の中で大学院教育委員会及び修士運営委員会が教育制度全般(カリキュラム、入進学制度、研究指導體制、学位制度等、教育内容・方法)について検討・改善するための取組みをし、補佐会議、大学院運営委員会は基本理念を分掌している。学生支援の検討は大学院教育委員会が担当している。図書、講義室等の施設整備・管理の検討は整備委員会・図書委員会が分掌し、教育の推進と改善に関わっている。留学生の教育、厚生に関しては国際交流委員会、YLP・JDS 運営委員会が担当している。予算と関わる問題には予算委員会が修士運営委員会・大学院教育委員会と協力して推進している。上記の体制の下で次の取組みがなされている【資料（医）I-2-1】【資料（医）I-2-2】【資料（医）I-2-3】【資料（医）I-2-4】（別添資料（医）I-E 教育実施体制参照）。

【資料（医）I-2-1】取組一覧

| | |
|-----|--|
| (1) | 平成 19 年度から、若手研究者の早期選抜、育成を目指した研究者養成特別コース(MD・PhD コース、研究科長直属大学院コース)を開始、寄附による奨学金で生活支援を行う。 |
| (2) | 平成 20 年度から始まった社会人入学は、2007 年度入学者は 75 名に至っている。このシステムの目的は、研究施設等に携わる社会人に対して、高いレベルの教育研究を推進し、高度専門職業人を育成する。 |
| (3) | 教員に関しては、全教員の任期制の導入を進め、60%を超える教員が任期制となっている。再任に当たっては、研究成果、研究費獲得等の評価を行い、流動性の向上を促す。 |
| (4) | 学生の学習支援環境の整備として、ゼミ室を多く新設し、自習や討論の場を整備する。 |
| (5) | 学生への経済的支援とキャリアパスに関する方策としてRA・TAなどを広く活用する。 |
| (6) | 教育内容の多様化を進め、医工連携研究を促進するために平成 19 年度より工学研究科教員を医科の協力講座に加える。 |
| (7) | 鶴舞公開セミナー（研究ガイダンス）・ベーシックトレーニング(研究基礎技術をトレーニングするコース)については、学生アンケートを実施し内容の充実に努める。 |

《出典：医学系研究科・医学部教授会内規、医学系研究科常置委員会内規、修士運営委員会・大学院教育委員会記録》

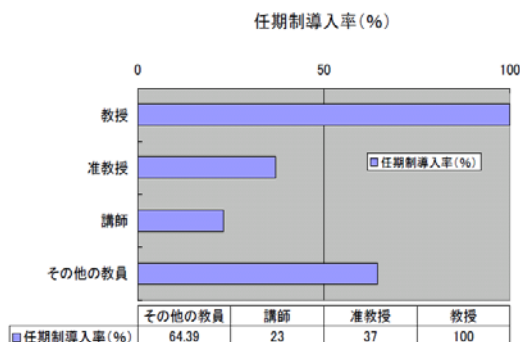
【資料（医）I-2-2】

博士課程社会人入学者数

| | 志願者 | 合格者 | 入学者 |
|----------|-----|-----|-----|
| 平成 12 年度 | 2 | 2 | 2 |
| 平成 13 年度 | 3 | 3 | 3 |
| 平成 14 年度 | 53 | 53 | 53 |
| 平成 15 年度 | 56 | 55 | 54 |
| 平成 16 年度 | 51 | 51 | 51 |
| 平成 17 年度 | 55 | 53 | 53 |
| 平成 18 年度 | 68 | 64 | 63 |
| 平成 19 年度 | 80 | 75 | 75 |

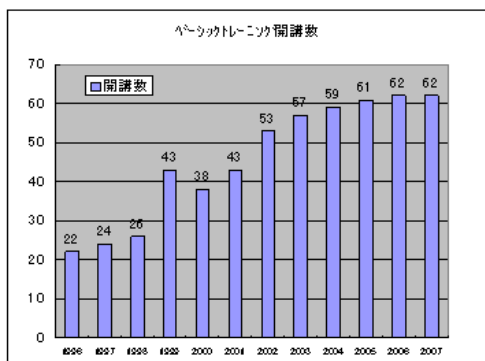
《出典：学務課大学院掛資料》

【資料（医） I -2-3】《出典：外部評価報告書 p77》



【資料（医） I -2-4】《出典：外部評価報告書 p 56、p58、》

ベーシックトレーニング開講数



資料36

鶴舞公開セミナー

| 回 | 開催日 | 場所 | テーマ | 参加教員 1日目 | 参加教員 2日目 |
|----|-----------------|---------------|------------------------------|-------------|-------------|
| 9 | 2004年4月22日, 23日 | 医系研究棟1号館後援会禮堂 | 21世紀における先端医学研究のために | | |
| 10 | 2005年4月21日, 22日 | 医系研究棟1号館後援会禮堂 | 新たな分子時代の医学 | 112 | 118 |
| 11 | 2006年4月20日, 21日 | 基礎研究棟4号館後援会礼堂 | がん研究の最新展開 - 基礎研究から臨床医学への架け橋を | 126 | 110 |
| 12 | 2007年4月18日, 19日 | 中丸診療棟3号館禮堂 | 研究紹介 | 112 | 96 |

資料39

医学系研究科（保健学）では、教育委員会保健学部会を設置している。学科全体で取り組むべき事案については、専攻主任により構成される主任会を経て保健学専門委員会で審議される。（別添資料（保） I - F 教育に関する体制参照）

博士前期課程は、教育委員会保健学部会が中心となり、授業、教育環境・システムに関するアンケートを実施し、授業改善に反映させている。

また、大学院教育の改善のため全専攻教員を対象として毎年ファカルティデベロップメント（FD）を行っている（資料（保） I - 2 - 2）。

【資料（保） I -2-2】《出典：学務課学務第二掛資料》

FD開催実績表

| 回 | 開催日 | テーマ・題 | 対象教員 | 参加人数(参加率) |
|---|----------------|--------------------------------------|------|--------------------|
| 1 | 平成18年9月27日(水) | 高等教育センターからの報告 保健学科各専攻の教育実践例、ほか | 全教員 | 77名(91名中) 84.6% |
| 2 | 平成19年1月10日(水) | 「大学院研究の指導法一介入と自立性」 | 全教員 | 67名(92名中) 72.8% |
| 3 | 平成19年9月12日(水) | 大学院教育の国際化推進プログラム海外 先進教育実践支援について | 全教員 | 67名(92名中) 72.8% |
| 4 | 平成19年12月26日(水) | 「教育・研究の質の向上」についての分科 会（テーマは各専攻で設定） | 全教員 | 85名(92名中) 92.3% |

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 医学系研究科(医学)の博士課程は、大講座制となり、内科系と外科系は、臓器別再編成され、機能的な研究、教育及び管理体制が確立した。教育内容・改善については、教育委員会等により検討する体制をとっている。

医学系研究科(保健学)は博士課程前期課程・後期課程を開設し、高度専門職業人育成に積極的な取り組みを行っている。教育内容は教育委員会により定期的に見直され、大学院FDを実施するなど、システム的な取り組みが確立されている。

したがって、観点Ⅰ-1、観点Ⅰ-2共に期待される水準にある。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点2-1 教育課程の編成

(観点に係る状況)

医学系研究科(医学)では、共通(基礎)科目と専攻科目の2本立てとしている。共通(基礎)科目(4単位)は、基盤医学特論講義(医学特論)と基盤医科学実習(ベーシクトレーニング)から成る。基礎科目は、主として1年次に履修する。基盤医学特論講義の内容は毎年大学院教育委員会が中心となって企画・実施するが、4専攻の各講座の授業科目等に準拠して開講している。基盤医科学実習(ベーシクトレーニング)のカリキュラムは年次ごとに決定され、平成19年度は62コース開講した。

専攻科目は主専攻科目(16単位)、副専攻科目または広域専攻科目(10単位)から成り共に必須としている。各専攻科目の内容は、セミナーと実験から成る。主専攻科目、副専攻科目又は広域専攻科目の組み合わせは自由とし、学生の個性の育成を図っている。臨床系科目を主専攻とする場合、6単位以上の基礎医学系科目を副専攻としている。

医学系研究科(保健学)は、研究能力を有する医療技術者を育成するという方針に基づいて、求める学生像や入学者選抜の基本方針が記載された入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を定めている。前期課程は、卒業要件30単位以上の中に共通科目から6単位を最低履修要件としており、専門領域の教育のみでなく幅広い教養を有する高度医療専門職の育成を行っている。また、高度な専門職業人養成、看護学専攻でがん専門看護師を養成するCertified Nurse Specialist(CNS)コースの運用を始めた。平成19年度より専攻、研究科の枠を越え、研究と有機的つながりをもつ教育プログラムとしてトータルヘルスプランナー(THP)養成コースを開始し、社会の要請に対応できる新しい教育課程(コース)を加えた(別添資料(保)Ⅱ-A教育課程表)。

後期課程は特講1科目2単位、特講演習1科目2単位及び特別研究1科目4単位、合計8単位以上の履修を修了要件としている。

出典:《大学院教育委員会議事録、大学院シラバス》(別添資料(医)Ⅱ-A教育課程表)

【資料(医)Ⅱ-B】《出典:外部評価報告書p50、57》

観点2-2 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

医学系研究科(医学)では、多様な社会要請に応えうる医学研究者を養成するために、社会人入学を進めている。

近年の医学生物学の進歩や医学医療の高度化・専門化に伴い、早期に研究を開始させ、医学医療の急速な進歩に応えられる医学研究者・教育者を育成する為、研究者養成特別コース(MD・PhDコース)を平成19年度から開設した。また、研究者育成の為、臨床医学の講座に所属する前に、早期にかつ自由に研究に専念できる条件を確保した研究科長直属大

学院コースを設けた。平成19年度には、MD・PhDコース、科長直属コースに各1名が入学し、20年度も科長直属コースに1名が入学予定である。更に、国際貢献のプログラムとして医科学専攻医療行政コース（ヤング・リーダース・プログラム）を設置し、アジア諸国等の将来のナショナル・リーダーの養成に貢献している。【資料（医）Ⅱ-2-3】

医学系研究科（保健学）では、修了判定については各専攻教員から構成されている保健学専門委員会の下で厳密に行われている。

また、社会人大学院生を幅広く受け入れている。（別添資料（保）Ⅱ-B 入学状況参照）社会人においては、授業を昼間及び夜間に配置すること、共通科目を週末に開講する、あるいは集中講義を実施する、研究発表会を週末に行うなどの配慮がなされている。また、科目等履修生制度を設け、広く社会に教育機会を提供している（別添資料（保）Ⅱ-C 科目等履修生数参照）。

【資料（医）Ⅱ-2-3】

医科学専攻医療行政コース
（ヤング・リーダース・プログラム）
設置の目的

- ・アジア諸国等の将来のナショナル・リーダーの養成に貢献する。
- ・日本に対する理解を深めることを通じて、世界各国指導者層の間にネットワークを創り、我が国を含む諸国間の友好関係の構築、政策立案機能の向上に寄与することを目的とする。
- ・日本政府(文部科学省)の国費外国人留学生制度のひとつである。

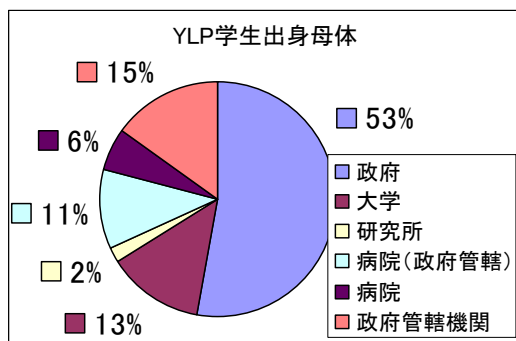
資料27

YLPカリキュラム(必修科目29単位)①

- ・ 医療システム論(Health Service Systems)2単位
- ・ 医療行政論(Health Administration)2単位
- ・ 医療経済学(Health Economics)2単位
- ・ 医療開発経済学(Health Development Economics)2単位
- ・ 地域保健学(Community Health)1単位
- ・ 労働・環境衛生学(Occupational and Environmental Health)1単位
- ・ 疫学・生物統計学(Epidemiology & Biostatistics)2単位
- ・ 医事法制(Medical Law)1単位
- ・ コロキウム(Colloquium)4単位
- ・ フィールドトリップ(Field Trip)2単位
- ・ インターンシップ(Internship)2単位
- ・ 医療行政ゼミナール(Health Administration Seminar)2単位
- ・ 医療行政研究(Health Administration Research)2単位
- ・ 研究論文(Master Thesis)4単位

※他、選択必修科目最低1単位

資料28



YLPカリキュラム(特色ある科目)②

- ・ コロキウム
年間6回程度、日本の医療関係に関連する指導者、或いは日本のヤング・リーダースの話を聞き、討論する機会を設ける。
- ・ フィールドトリップ
3ヶ月に1回程度、各地の医療、厚生関連施設及び国内の文化遺産等を見学し、留学生の日本理解に資する。（国外へのフィールドトリップの実施も視野にいれている。）
- ・ インターンシップ
厚生労働省、県衛生部、保健所等で、1週間程度、現場の仕事に触れ、日本のシステムの実践的な知識を得る機会を設ける。

資料29

《出典：外部評価報告書 p 52、53、57》

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 医学系研究科（医学）は、学生の早期研究開始、大学病院における最先端技術・知識の習得、臨床実践と基礎研究の両立という要求に十分に答える内容となっており、大学院教育委員会が中心となって大学院生の要求への対応を協議している。

医学系研究科（保健学）は、がん専門看護師を養成する Certified Nurse Specialist (CNS) コースや専門性にとらわれない保健医療職を養成する トータルヘルスプランナー (THP) コ

名古屋大学医学系研究科 分析項目Ⅱ・Ⅲ

ースなど時代に即応する新しい教育課程の取り組みが積極的になされており、大学院 FD など組織的な教育課程の見直し、具体的かつ継続的に講じられていると判断できる。したがって、観点 2-1、観点 2-2 共に期待される水準にある。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 3-1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

医学系研究科(医学)のカリキュラムは、専攻・専門分野の目的に照らして、「共通(基礎)科目」、「主専攻科目」、「副専攻科目」の「講義」及び「セミナー及び実験研究」をバランスよく組み合わせたものとなっている。講義科目では比較的多人数の学生を対象に授業を行っており、セミナー及び実験研究科目では、少人数で授業を行っている。学生の個性を発掘し、研究内容や雰囲気伝えるホームページを専攻、講座毎に提供している。さらに TA・RA 制度の活用により指導能力の有効な育成を図っている。多くの大学院学生は TA として学部授業の教育補助業務を行い、大学院生は「21 世紀 COE プログラム：神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」により RA として採用し、大学院の教育・研究に活用している【資料(医)Ⅲ-1-1】。

【資料(医Ⅲ-1-1)】

21 世紀 COE 研究アシスタント

| 2004 年度 | 2005 年度 | 2006 年度 | 2007 年度 |
|---------|---------|---------|---------|
| 3 2 名 | 3 4 名 | 3 4 名 | 3 4 名 |

《出典：21 世紀 COE 報告書資料》

医学系研究科(保健学)の授業形態は、少人数授業、対話討論型授業、フィールド型授業及び臨床現場型授業など、授業の目的に応じた教育がなされている。

学習指導方法は、一般学生には昼間の時間帯、社会人には夜間及び週末の時間帯に授業が用意され、多様な学生に利便性を図っている。またシラバスを充実させ、履修科目の選択、あるいは指導教員との履修計画の策定に活用している。また、TA、RA の制度が確立しており、大学院学生は教員の学部学生教育のアシスタントとして教育に参加することで、教育・研究能力の育成が図られている【A2-2007 入力データ集：No.4-10 TA、RA】。

観点 3-2 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

医学系研究科(医学)修士課程の1年生の入学ガイダンスでは、修士課程の概要、カリキュラム、進路状況等を説明し、指導教員の相談下、2年間履修計画を作成・提出させるなど、授業科目の選択に関わる指導を行い、大学院生はシラバスを活用して履修計画を立てるとともに所属専門分野の研究室や医学部分館で自らの勉学場所が確保されている【資料(医)Ⅲ-2-1】。

博士課程は、鶴舞公開セミナーの実施(研究及び研究室のガイダンス、研究室間の交流)、ベーシクトレーニング、スーパートレーニングコースを実施し、また、トレーニングの環境整備により充実を図っている。

医学系研究科(保健学)では、学生に対し、指導教員の指導のもとに入学時点から学修計画書の提出を義務づけ、指導教員は特論、セミナー等で適切に指導している。平成 18 年度よりシラバスは Web 上で公開された。

教育環境は、専攻ごとの大学院生室に加え、専用自習スペースが確保されている。大学院セミナー室も完備し、自主的セミナーなどによく利用されている。保健学図書室は大学

院発足後、開館時間の延長及び平成 19 年度からの土曜日の開館も始め、社会人大学院生に好評である。無線 LAN もよく利用されている。

【資料（医）Ⅲ-2-1】

医学部分館時間外利用（平成 8 年 8 月 26 日開始）

利用時間 1 日 20 時間（0 時～4 時は閉館）

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
|---------|----------|----------|----------|----------|
| カード発行枚数 | 102 名 | 167 名 | 228 名 | 251 名 |
| 時間外入館者数 | 16,415 人 | 18,423 人 | 12,442 人 | 14,349 人 |

《出典：医学部分館利用統計》

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）医学系研究科（医学）学生の主体的な発意に基づいて、公開セミナー、大学院研究発表会などが企画・運営され自主性を十分に尊重した創意あふれる取り組みになっている。特論や種々のセミナーへの自由な参加が可能となっており、各教室での自習スペース、図書館の使用時間の延長など、自主学習が可能な環境づくりが進んでいる。

医学系研究科（保健学）では、Web 経由で授業科目表やシラバスを参照し単位を申請でき、授業時間外の学習時間もそれぞれ確保されている。また、電子メールで教員との面談日時が設定でき、指導の効率化が図られている。教育環境も、研究室の自習スペースの確保、セミナー室の完備、保健学図書室開館時間延長及び土曜日開館、無線 LAN の設置など、自主的学習の環境整備が進み、主体的な学習を促す環境にあると判断できる。したがって、観点 3-1、観点 3-2 共に期待される水準にある。

分析項目Ⅳ 学業の成果

（1）観点ごとの分析

観点 4-1 学生が身に付けた学力や資質・能力

（観点到係る状況）

医学系研究科（医学）の修士課程の学位授与率は、ほぼ 100%を維持している。また、博士課程では、平成 19 年度の修了者は 131 名であったが、平成 16 年度 117 名、平成 17 年度 111 名、平成 18 年度 130 名で、学位授与率は 7 割から 8 割を維持している。特に顕著な業績を上げた学生は 4 年未満の短期修了を促しており、毎年十数名の短期修了者を出している【資料（医）Ⅳ-1-1】。

医学系研究科（保健学）の前期課程の社会人学生を除く一般学生の修了生は、後期課程の定員のおよそ 20%から 40%を占めている。前期課程の学位授与率は、平成 14 年度入学生 89.2%、平成 15 年度及び平成 16 年度入学生では 100%を維持している。大学院生の学会発表、論文発表など、学術活動への参加は極めて活発に行われている【資料（保）Ⅳ-1-1】。

就職した学生は、高度専門職業人として臨床で活躍し、あるいは研究者、教育者として研究教育職に就いており、その成果は上がっている。後期課程は平成 19 年に第一期生が修了し、学位授与率は 62%であった。【A2-2007 入力データ集：No.4-3 学位等授与】

名古屋大学医学系研究科 分析項目Ⅳ

【資料（医）Ⅳ-1-1】

大学院学生の研究業績 (単位:件)

研究科名:医学研究科

| 年度 | 論文発表数 | 学会発表数 | 受賞数 |
|----|-------|-------|-----|
| 16 | 193 | 520 | 1 |
| 17 | 253 | 628 | 6 |
| 18 | 284 | 622 | 10 |
| 19 | 207 | 466 | 4 |
| 計 | 937 | 2236 | 21 |

《出典：学務課大学院掛資料》

【資料（保）Ⅳ-1-1】

大学院生の研究業績

研究科名:医学系研究科(保健学)

| 年度 | 論文発表数 | 学会発表数 | 受賞数 |
|----|-------|-------|-----|
| 16 | 28 | 107 | 2 |
| 17 | 35 | 142 | 2 |
| 18 | 65 | 175 | 3 |
| 19 | 44 | 143 | 3 |
| 計 | 172 | 567 | 10 |

(単位:件)

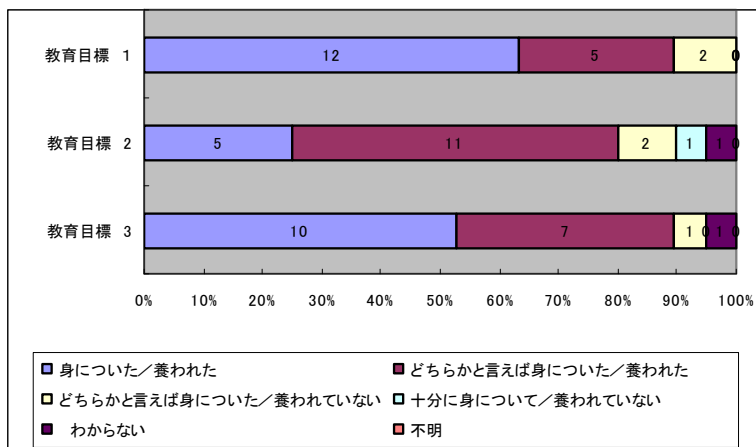
《出典：学務課学務第二掛資料》

観点4-2 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

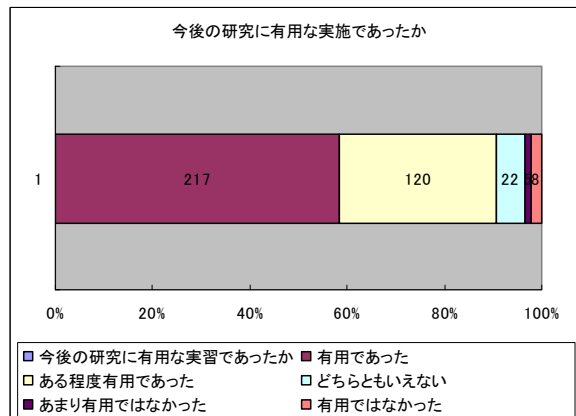
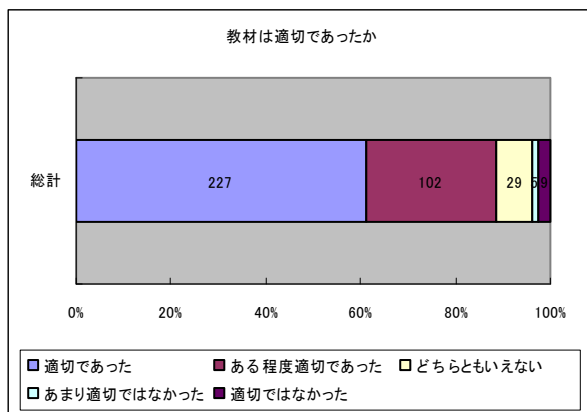
平成19年度に修士・博士課程修了生を対象として実施したアンケートによると教育目標に掲げた3点についてほぼ9割の修了生が身についたと答えている。また、ベーシックトレーニング(研究に必要な種々の研究技法の習得、加えて文献検索法、統計学的データ処理、情報処理、解析法)についてのアンケートは、6割の学生が適切で有用であったと答えている【資料(医)Ⅳ-2-1】【資料(保)Ⅳ-2-1】。

【資料(医)Ⅳ-2-1】【教育成果アンケート】



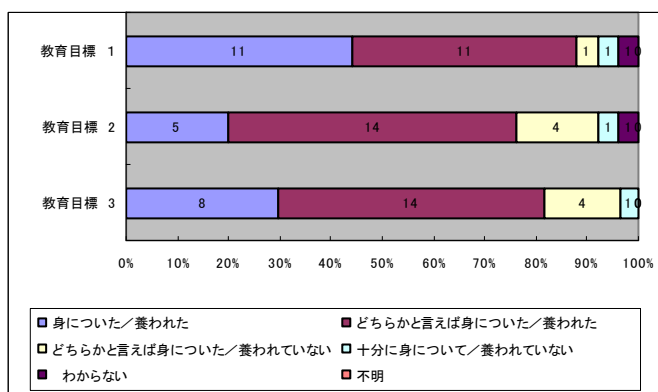
《出典：平成19年度教育成果調査》

【基盤医科学実習学生アンケート】



《出典：学務課大学院掛資料》

【資料（保）Ⅳ-2-1】【教育成果アンケート】
（保健学）博士課程修了生アンケート結果



《出典：平成 19 年度教育成果調査》

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学系研究科（医学）は、アンケートに見るように教育成果・ベーシックトレーニング共に多くの学生が満足する結果を示している。

医学系研究科（保健学）は、学生の研究業績は期待される以上の水準にあり、組織的取り組みに向かった試みととらえることができる。したがって、観点 4-1、観点 4-2 共に期待される水準にある。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 5-1 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

医学系研究科（医学）の修士課程修了者の就職希望者は、習得した能力を十分に発揮できる薬学関係の企業や研究機関にほぼ 100% 就職している。(資料(医)Ⅴ-1-1)。

博士修了・単位取得退学者も医療・医学関係はもとより民間企業にも就職し、広い領域で専門能力を発揮している【資料(医)Ⅴ-1-1】【資料(医)Ⅴ-1-2】。

医学系研究科(保健学)は、もともと社会人大学院生の在籍率が高く(前期課程 30-55%、

名古屋大学医学系研究科 分析項目V

後期課程 45-75%を推移)、修了後も研究職、教育職に数多く従事している。一般学生の前期課程修了者は、平成16年度88%、17年度95%、18年度90%、19年度94%が医療機関、研究・教育機関へ就職又は後期課程に進学しており、教育目的は達成できている。後期課程は、最初(平成18年度)の修了者11名(社会人7名、一般学生4名)のうち、一般学生は3名が教育・研究機関に就職した【資料(保)V-1-1】。

【資料(医)V-1-1】

大学院修士課程修了生の進路状況 《出典：学務課大学院掛資料》

| 卒業年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 大学院博士課程進学 | 7 | 11 | 5 | 5 |
| 民間企業等 | 8 | 3 | 11 | 6 |
| 医療機関 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 官庁 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| その他 | 3 | 3 | 2 | 3 |
| 合計 | 19 | 18 | 20 | 17 |

【資料(医)V-1-2】

大学院博士課程修了生の進路状況 《出典：学務課大学院掛資料》

| 卒業年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 |
|----------|-------|-------|-------|
| 病院 | 49 | 67 | 56 |
| 大学病院 | 15 | 24 | 27 |
| 大学教員等 | 5 | 4 | 7 |
| 研究員・ポスドク | 12 | 17 | 15 |
| 研究所 | 3 | 2 | 5 |
| 留学 | 2 | 3 | 3 |
| その他 | 29 | 22 | 27 |
| 合計 | 115 | 139 | 141 |

【資料(保)V-1-1】

大学院博士前期課程修了生の進路状況(社会人を除く。)

| 卒業年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 大学院博士課程進学 | 8 | 3 | 7 | 5 |
| 医療機関 | 7 | 18 | 19 | 17 |
| 官庁 | 4 | 2 | 1 | |
| 研究職 | 4 | 8 | 3 | 2 |
| 民間企業 | 7 | 6 | 6 | 7 |
| その他 | 4 | 2 | 4 | 2 |
| 計 | 34 | 39 | 40 | 33 |

大学院博士後期課程修了生の進路状況

| 卒業年度 | H18年度 | 左のうち社会人 | H19年度 | 左のうち社会人 |
|-------|-------|---------|-------|---------|
| 一般病院 | 5 | 5 | 2 | 2 |
| 大学病院 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 大学教員等 | 8 | 4 | 9 | 8 |
| 民間企業 | 1 | | 2 | 1 |
| その他 | 1 | | | |
| 計 | 16 | 10 | 14 | 12 |

《出典：学務課学務第二掛資料》

観点 5-2 関係者からの評価

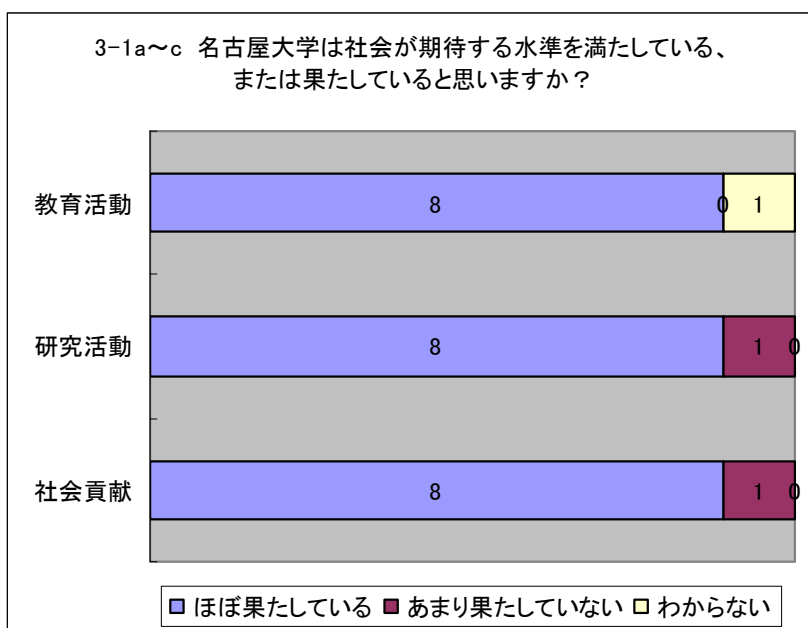
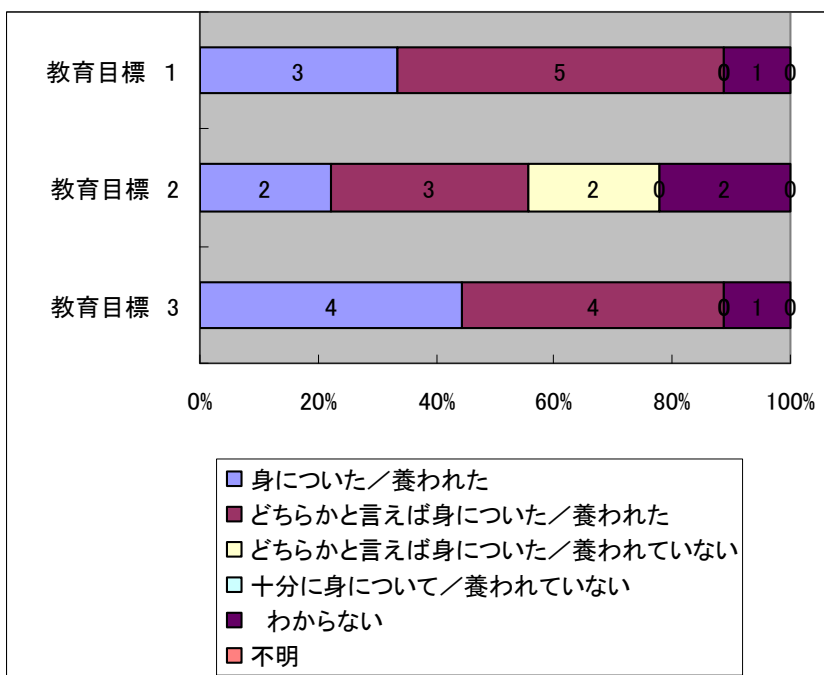
(観点に係る状況)

医学系研究科（医学）学生のアンケートで良好というコメントが多い。社会に出た卒業生の就業態様、診療・研究の状況に関して、関係者からも良好との感想が寄せられている【資料（医）V-2-1】。

医学系研究科（保健学）では、アンケートが過去2回行われ、大学院教育に満足している結果が報告されている。また、前期課程の修了者の90%以上が希望の就職あるいは進学ができています。具体的な評価は、就職委員等の連絡を通じて機会あるごとに大学院教育に対する意見を聴取している。

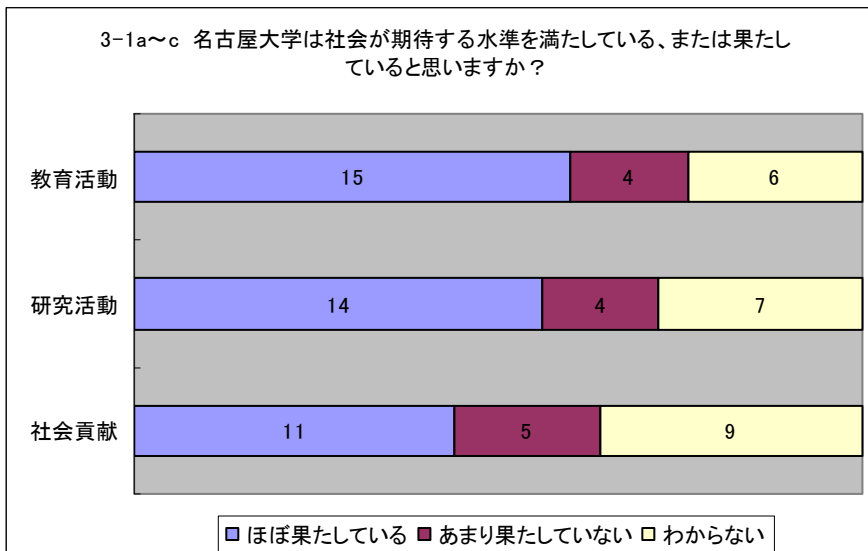
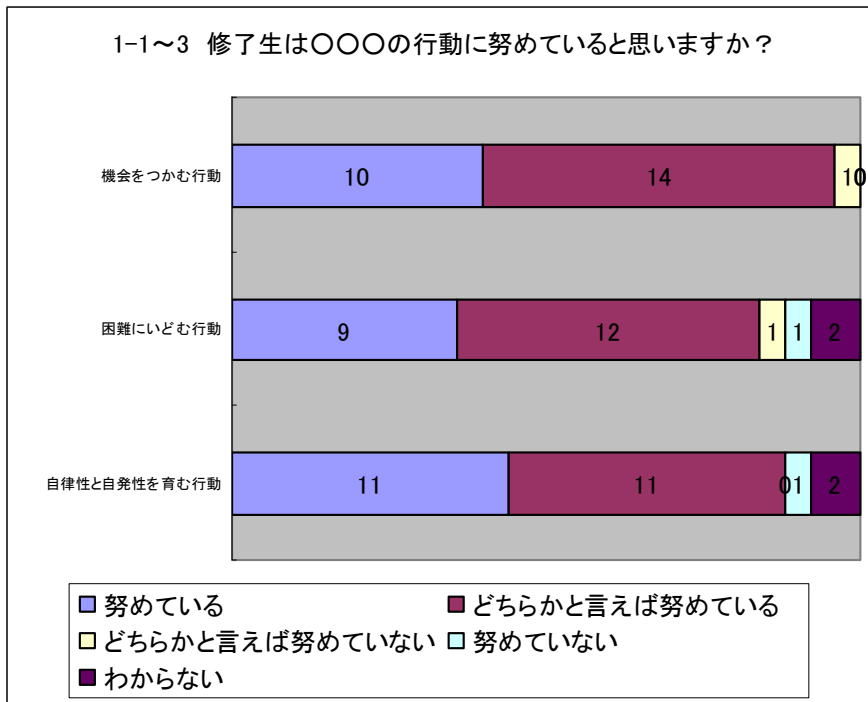
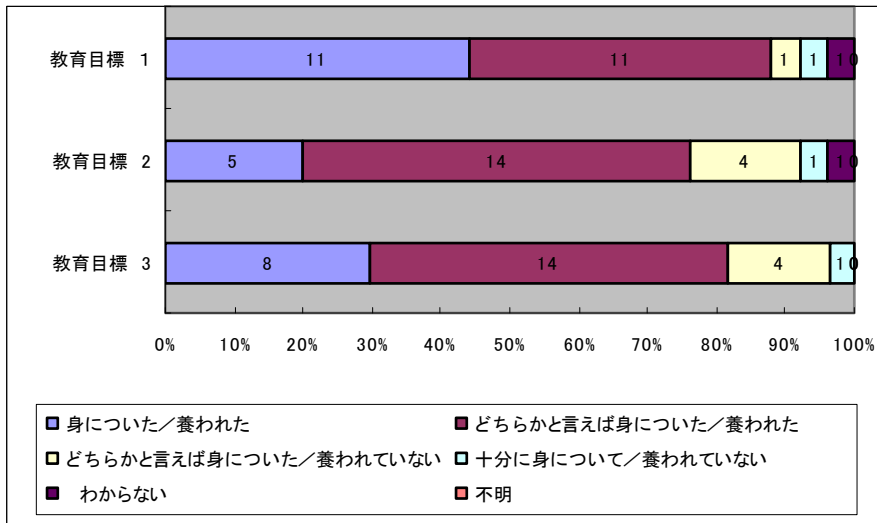
【資料（医）V-2-1】修了者の上長アンケート結果

《出典：平成19年度教育成果調査》



名古屋大学医学系研究科 分析項目 V

(保健学) 博士課程修了者の上長アンケート結果



(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

学生のアンケートで概ね良好というコメントが多い。社会に出た卒業生の就業態様、診療研究の状況に関して、関係者から概ね良好との感想が寄せられている。したがって、観点 5-1、観点 5-2 共に期待される水準にある。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「研究者養成コース」(分析項目Ⅰ)

(質の向上があったと判断する取組)

研究者養成コースを新設し、入門コース(医学英語、医学倫理、医学統計学、スーパートレーニング)を精力的に履修しており、研究者養成としての大学院の質の向上に大きく貢献している【資料(医)Ⅰ-2-1】。

②事例2「医学特論」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

医学系研究科では、国内外で活躍する科学者を大学院に招いて講演会を「医学特論」と称して開催している。医学特論の開講数は100回を超え、3日に一度の割合で開講されている。大学院生がその分野の最先端の研究者の講演を聴講する事は、良い刺激になり、自身の研究にも多くの示唆が得られる(別添資料(医)Ⅱ-B-3)。

③事例3「CNSコースとトータルヘルスプランナー養成コース」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

医学系研究科(保健学)では、平成18年度よりがん専門看護師を養成する Certified Nurse Specialist(CNS)コースを、平成19年度からは、トータルヘルスプランナー養成コースを新たに編成するなど、社会の要請に対応する新しい取り組みが行われている。保健医療が社会制度や人口動態により影響を受ける以上、このような社会の要請に即応する教育的取り組みは、その成果が広く社会に還元されるものであり、地域貢献の観点からも高く評価されるべきものとする。(別添資料(保)Ⅱ-A教育課程表)

④事例4「21世紀COEプログラム：神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」

(分析項目Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組)

21世紀COEプログラムでは、大学院生をCOE研究アシスタントとして採用し、経済的支援を行うとともに、国内、海外での学会参加を支援した。また、大学院生を含む若手研究者の自立研究支援のために若手奨励研究経費の支給を行った。「基礎と臨床の一貫性」及び「神経と悪性腫瘍に共通する標的分子」という視点に基づき、異分野融合型の教育プログラムを実施し、特にCOEプログレスレポート会議、COE若手研究フォーラムでは、大学院生が積極的に研究成果を発表し、異分野の研究者から指導を受ける場を提供した。これらにより、自立性、独創性及び国際性を備えた大学院生の育成に大きな効果が得られた【資料(医)Ⅲ-1-1】。

⑤事例5「ベーシックトレーニング」(分析項目Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

基盤医科学実習は、「ベーシックトレーニング」の通称で平成元年度から「医学基礎実習」としてスタートした。当初は、数講座が開講されたのみであったが、年々増加し、平成19年度には、62コースが開講され、医学研究に必要な様々な研究技法や評価方法などが例示される他、文献検索の方法や研究分野の概論などが講じられている【資料(医)Ⅰ-2-4】【資料(医)Ⅳ-2-1】。